

第3学年 音楽科学習指導案 題材名「声や音楽の特徴を生かして謡を謡おう」 謡「敦盛」から	日時 令和7年 11月14日(金) 第6校時 学年 第3学年 12名(男子8名女子4名) 指導者 堀田 侑希
---	--

1 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領「A 表現」(1)「歌唱」のア「歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」、イ(イ)「声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解すること」、ウ(ア)「創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること」を受けて設定した。また、〔共通事項〕のうち音色、リズム、速度、旋律を扱う。

日本の伝統音楽には、西洋音楽とは異なる独特の美しさがある。能の謡は、旋律や拍が一定ではなく、言葉の抑揚や間を大切に、心情や情景を表現する音楽である。

本題材では、日本の伝統音楽である「能楽」に触れ、平家物語を題材とした謡「敦盛」を学ぶことを通して、日本文化の奥深さや表現の豊かさを体感させることができる。日本の音楽がもつ、間や速度の変化、言葉を大切に音の表現を体験的に理解することをねらいとする。また、鑑賞の学習だけにとどまらず、日本の伝統的な歌唱の特徴を捉えて、自分たちで謡ってみる活動を取り入れることを通して、声の出し方や息づかい、集団での響きのつくり方を学び、伝統音楽に親しみをもつ態度を育てることを目指す。鑑賞と表現の活動を体験することにより、能の魅力や面白さを感じさせることができると考える。

(2) 生徒観

本学級の生徒に実施した教科アンケートは下のとおりである。「音楽科において、どの分野が好きですか」という質問に対して、「歌唱」44.4%、「器楽」22.2%であったことから、表現活動に対する意欲が高いと考える。また、「日本の伝統音楽に興味はありますか」の質問に対する、肯定的回答率は66.7%であった。肯定的回答の理由として、「日本の落ち着いた音楽が好き」「歌舞伎を学んだことで他の伝統音楽にも関心をもつようになった」という記述があった。一方で、「伝統音楽をあまり知らない」「なじみがなく、難しそう」という理由で親しみをもてない生徒もいる。

そのため、本題材を通して、表現活動を伴いながら日本の伝統音楽の特徴や魅力を追究する活動が有効であると考えている。よさを味わい日本の伝統音楽の理解の深化を図りたい。

〈アンケート結果〉(一部抜粋)

	質問項目	回答
1	音楽科の学習は好きですか。	肯定的回答 100%
2	音楽科の学習において、どの分野が好きですか。	歌唱 44.4% 器楽 22.2% 創作 0% 鑑賞 33.3%
3	これまでの音楽科の学習においてどのような力が身に付きましたか。	・歌うこと ・音楽記号を読み取る力 ・歌唱表現する力 ・鑑賞の授業を通して、感じたことを言葉で表現する力 など
4	日本の伝統音楽で、どのようなものを知っていますか。	・歌舞伎 ・雅楽 ・箏 ・尺八 ・三味線
5	日本の伝統音楽に興味はありますか。	肯定的回答 66.7%
6	5の質問でそう考える理由を書いてください。	・日本の落ち着いた音楽が好きだから ・歌舞伎を学習して、ほかの伝統音楽も気になったから ・聴くのが楽しいから ・あまり知らないから ・興味をもたない など

(3)指導観

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編」の新教育課程では、「音楽の見方・考え方」については、次のように整理されている。

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること

能の音楽の「謡」に焦点を当て、声の音色や節回しなどの旋律の特徴、リズム、速度の変化の表現の工夫を伝え合う言語活動を行う。模範演奏を聴き、実際に声を出して表現することで、これらの特徴を生徒一人一人が感じ取り、伝統的な歌唱における声や歌い方の特徴に興味・関心をもつことができるように工夫する。また、自分たちで試行錯誤しながら自分なりの謡本をつくることで生徒が我が国の伝統音楽のよさを味わい、愛着を持ち、我が国の音楽文化に対する理解を深めるとともに音楽の授業に主体的に取り組めるようになるのではないかと考える。

2 題材の目標

- 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解しているとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- 謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、産み字やコミといった曲種の特性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。

題材の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。(知識) ② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。(技能)	① 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。	① 謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、産み字やコミといった曲種の特性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（全3時間）

時	学 習 内 容	評 価				
		知	表	主	評価規準	評価方法
1	情報の収集 ○謡の特徴を感じ取り、関心を高める。 ・既習の鑑賞教材（能「敦盛」）にどのような特徴があったかを振り返る。 ・能の特徴を捉え、学びの見通しやその意義について確認する。					

	<p>課題設定</p> <p>○謡と声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模範演奏を聴いたり、歌ったりして謡い方の特徴やリズムや旋律の特徴について気付いたことをワークシートに記入する。 	○	<p>ア① 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。(知識)</p> <p>○ ウ① 謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、産み字やコミといった曲種の特性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	<p>観察、ロイロノート</p>
2 本 時	<p>整理・分析</p> <p>○音色、リズム、速度、旋律を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、謡にふさわしい歌唱表現として、どのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい歌唱表現の工夫を考え、楽譜に記入する。 	○	<p>イ① 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。</p>	<p>観察、ロイロノート</p>
	<p>創造・表現</p> <p>○創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・謡の表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などについてグループで追及する。 	○	<p>ア② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p>	<p>演奏、観察、ロイロノート</p>
3	<p>表現・まとめ</p> <p>○学習を通して身に付いた力や、表現することで感じ取った我が国の伝統的な歌唱や伝統文化の固有性やよさ、学習のいぎについて考え、学習の価値づけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能の魅力や面白さについて気付いたことや理解したことを振り返り、自分の考えをまとめる。 	○	<p>ウ① 謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、産み字やコミといった曲種の特性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	

4 本時の学習

(1) 本時の目標

○日本の伝統的な歌唱の特徴を捉えて、「敦盛」を謡うことができる。

(2) 本時の評価規準

ア②創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。

イ①音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。

(3) 本時のめざす生徒の姿 (評価基準)

	評価基準	生徒の姿	基準達成のための手立て
A	模範演奏をもとに能の謡特有の発声や言葉の発音、体の使い方などを意識し、自分の声を創意工夫しながら謡うことができている。	どのようにしたら能の謡らしい発声になるか考え、試行錯誤しながら謡っている。	模範演奏を繰り返し聴かせ謡の特徴を理解させ、個々やペアの練習の場を設け、個々の表現を引き出す。
B	模範演奏をもとに能の謡特有の発声や言葉の発音、体の使い方などを意識し、謡うことができている。	謡の特徴を意識しながら、声に出して謡っている。	模範演奏を繰り返し聴かせ謡の特徴を理解させる。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	

(4) 準備物

教科書、ワークシート、タブレット、パソコン、モニター

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準[観点] (評価方法)
1 前時の学習内容の確認 ・能の謡い方の特徴について確認する。 ・録音した音源を振り返り、「能らしい謡い方」とは何か考える。	フシ・廻し・産み字・コミ・間・ハシリ	
2 本時のめあてを確認する。		
日本の伝統的な歌唱の特徴を捉えて、「敦盛」を謡おう。		
3 能「敦盛」の一部(「一門みなみな～遙かに延びたまふ」)を聴いて、謡の特徴を捉える。 ・音源を繰り返し聴き、謡の特徴を感じ取ってワークシートに記入する。	◇模範演奏を繰り返し聴かせ、どのようにしたら能の謡らしい発声に近づくことができるかを試行錯誤しながら謡の練習をさせる。 ◇実際に声を出しながら、表現を考えさせる。	イ① 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚

<p>【予想される生徒の反応】</p> <p>「一門みなみな～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を張って歌う ・言葉をはっきり、押すような感じで歌う ・フシを大きく謡う <p>「みぎわに～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだんはやく ・つまっているところを焦っている気持ちを表現する ・間を詰めていく <p>「はるかに～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍がなくなる ・フシを大きく ・引き延ばすように謡う <p>4 自分なりにつくった謡本を交流する。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで練習し、録音する。 <p>5 思いや意図をもって、グループで演奏発表をする。</p> <p>6 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆謡のポイントと手順を示す。 ◆タブレットに模範演奏を配付する。 ◆気付いたことや感じ取ったことを楽譜に言葉や記号を使って書き込ませる。 <p>◇知覚・感受したことと登場人物の心情とを関わらせた表現の工夫を考えさせる。</p> <p>◇ロイロノートの共有ノートで交流し、グループで1つの楽譜をつくり、考えた表現の工夫をもとに練習させる。</p> <p>◇ロイロノートの相互評価シートに記入させる。</p> <p>◇振り返りのポイントを確認させる。 [自分の思いや意図をもって表現することができたか。]</p>	<p>したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。(ロイロノート・観察)</p> <p>ア② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。(観察)</p>
<p>(生徒の振り返りの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A評価の記述例 最初の部分は力強く押すような感じで謡い、節回しの上がり下がりや、だんだん速くなる速度の変化に気を付けて表現できた。 ・ B評価の記述例 他の人の声を聴きながら、節回しの上がり下がりや速度に気を付けて表現できた。 		

(6) 板書計画

